26年春期 一口英語 225～235

225 **＊トカゲの尻尾切り** 1)I don't ライ　キッ　タ　トール と聴こえた！	●リピート練習で早速いい問題が登場しましたね。 I don't likeitatall.と一息で発音されるので、ライ　キッ　タ　トールと聴こえる。 トカゲの尻尾切りの発音で、音のイメージを変えましょうね。必ず聴こえてきます！
226 **＊トカゲの尻尾切り** **[ae]と[E]の聞き間違い** 1) Trump コールゾン allies to join his coalition. [コールゾア] 2)He laughed without saying anything to anyone. と聴こえた！	1)コールゾン allies→ calls on コールゾア allies →ゾンではなくゾアと聴こえた人もいました Trump calls on allies to join his coalition. ＊因みにcoalitionは第二次世界大戦では「連合軍」で、イラク戦争の時は「多国籍軍」でした。今回はアメリカとイスラエル２カ国ですから「同盟軍」としておきます。 2)He left without saying anything to anyone. ＊殆どの受講生には[laeft]と聴こえましたが[lEft]でしたね。
227 **＊トカゲの尻尾切り** 1)We マイ タ ズウェル leave early. と聴こえた。あるいは全体がグチャグチャとなって聴き落とした	1)カタカナ音を英語の音素に分解する ＊マイ タ→マイタ(t ＋a) ＊ズウェル→z well→マイタのタ(t＋a)の[a]と次のズウェルの[z]音が一語になって[az]→as We migh ta swell leave early.[マイ タ ズウェル] We might as well leave early.
●2026年秋期 228 **＊音のイメージを作り変える** 1)アンド・テイク 2)ヘルプ・ユー・キャリー	1)カタカナ音のイメージを耳が捉える音のイメージに変えよう 1)and take；andは[en]か[n]の音になりtakeの[k]は聞こえないので [nTEI(k)]→[ンテイ]のように聞こえる。[アンド]を待っても聞こえない。 2)help you carry：youは聞こえないほど弱音化しているので [ヘルプ・キャリー]にかすかに[ju]をつけて[ヘルピュキャリー]
229 **＊音のイメージを作り変える** 1)democratic 2)political 日本語のリズムから英語のリズムへ転換しよう 日本語の「アイウエオ」を今期卒業しよう	●英語の「リズムの法則」（今週の授業より採用を開始します） A)長い単語は２つに分解して、ストレス箇所を見つける B)リズムの基本パターン「強弱強弱」か「弱強弱強」 単語からフレーズになってもこのパターンで緩急をつけてうねらせる。 C)ストレスのない箇所は「曖昧母音」にする この３つを「リズムの法則」して、左記の1)と2)のストレス(強)がどこにあるか見てみましょう。 1)A) democratic →　demo cratic B) demo cratic　「強弱強弱」パターン C) ストレスのないmoの部分を「モ」と発音すると、たちまちローマ字英語になるので「ム」のように発音しましょう。 2)A) political → 短いので分割しなくてOK。あるいは poli tical B) political C) 最初が「ポリ」最後が「カル」になるとローマ字英語になる。 「プリ」と「クル」ように曖昧母音すると強弱の明確になります。
230 **＊音のイメージを作り変える** **＊＝曖昧母音** 1)＊ピールッ[t] 2)ウィチュー＊ルーデットゥ	●英語の「リズムの法則」（今週の授業より採用します） A)長い単語は２つに分解して、ストレス箇所を見つける B)リズムの基本パターン「強弱強弱」か「弱強弱強」 単語からフレーズになっても、このパターンで緩急をつけてうねらせる C)ストレスのない箇所は「曖昧母音」にする ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー C)ストレスが第２音節のとき第１音節の曖昧母音はストレスがなく聞き取りにくい 1)appeal it 2)which you alluded to

26年春期 一口英語 225〜235

231 **＊音のイメージを作り変える** 1)ウイッジュア eluded to みたいな感じで聴こえた	●音化け現象 A)ウイッジュアと聴こえたので→with your と書いた B)eluded「巧みに避ける」...文脈に合いそうな気もするので... 1)正解は： which you alluded to ：音声的には上記のA)と同じように聞こえる alludedの方は、曖昧母音**の**aの音が「エ」ぽく聞こえた。 ●実はこの「音化け」現象は、25年春期にも遭遇したことがあり、一口英語の185で取りあげました。前回の単語は、additionでした。 前回も第１音節のスペルが**a**なのに「エ」ぽく聴こえました。 教材はCNNで、スウェーデンがフィンランドに続きNATOに「追加として」加盟したのをゼレンスキーが歓迎した時の話でした。 ...Zelensky, welcoming the news, calling the addition a win for everyone. このadditionがeditionと聴こえたの、覚えている？ ＊ストレスのない第一音節が「エ]とか「イ」とかに聴こえても、スペルは"a"かもしれない。覚えておきましょう。
232 **＊音のイメージを作り変える** 1)トゥエズ long resume of〜 みたいな感じで聴こえた 全体の意味は： 「トム・クルーズは『名誉アカデミー受賞者』(という称号)を彼の長い業績に加えられる」 ＊称号と言って良いかは分かりません。	●動詞は「加える」で add： 「品詞何待ち」態勢で、トゥエズ と聴こえた部分を推測してみましょう。 Tom Cruise can now add.... さて動詞がaddの場合、次にどんな品詞がくるのだろうか。 addの意味は「加える」だから、まず思いつくのは「AをBに加える」つまり「add A to B」の3.5文型のパターン。その他3文型もあるが、3.5でみてみると： Tom Cruise can now add "Honorary Oscar Winner" トゥエズ long resume of accomplishments. ＊add Honorary Oscar Winner トゥエズ」は、おそらく「彼の長い業績に」だからto エズだろう。 ＊hisの"h"音は脱落しやすいから"h"音は聴こえず、加えて hisの[i]音は軽い[エ]のように発音されるから、トゥヒズではなく、トゥエズ のように聴こえる。 Tom Cruise can now add "Honorary Oscar Winner" to his long resume of accomplishments.
233 **＊音のイメージを作り変える** 1)which is in the series of タスデァサイン と聴こえた (231参照)	●タスデァサインyと講師の耳には聴こえた。さすが、これではなかなか正解に辿り着くのは難しいが、いくつか学べることはある。 A)series ofの後ろは、タスではなく、正しくはtasksであった。tasksの[ks]の部分が後ろの音に紛れ込んで聴こえなかった。 B)タスの直後のデァサインの部分は"their sign"のようにも読み取れるが、ァは[r]ではなく曖昧母音で、signではなくassignだった。よって、"their sign"の部分は"they assign"だった。 C)assignの後ろに、ほぼ発音されない過去形の[ed]がついて、正解は： which is in the series of tasks they assigned であった。 ●語頭の曖昧母音が、前の単語の語末の[r]音に聞こえる問題 231の ウイッジュアのアをwith yourと[r]と取ったミスもこれと同じ問題だった。 正しくは which you alluded. ＊assign/alludeなど、ストレスのない語頭の曖昧母音は、聞こえないか、あるいは前の単語の語末に[r]として聞こえることがある。

26年春期 一口英語 225～235

234 **＊音のイメージを作り変える** 1)ウィウィナ couple of days 2)・・ クラブレイ…ウィ…oneナナther と聴こえた	●解答 1)within a couple of days 2)they had collaborated with one another

235 **＊音のイメージを作り変える** 1)They got into these two sites, リータビック and ウェン under… for weeks. と聴こえた	●解答 A)リータビックはwreaked havoc (これを何と、BクラスのYSさんが聴き取っていた。脅威の音取り力！) B)ウェン under….は went undetected (2文型) 1)They got into these two sites, wreaked havoc, and went undetected for weeks. でした。